

もはや昭和ではない

真に新しい平成社会をつくりましょう



三豊市長

横山忠始

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災と福島原発事故という日本史上に残る大災害がありました。

被災者の皆さんに改め被災時の対応等、深く考えさせられた一年となりました。三豊市でも今後一層、自主防災組織の強化、公的支援のあり方、情報伝達の仕組み、他自治体との支援体制の強化等、現実感をもつて整備

を進めていかなければならぬと考えております。

円高・デフレ等で、地方は経済的疲弊が続いております。さらに少子高齢化は進み、医療・社会保障の問題も深刻化しております。

三豊市は合併特例が効いているとはいえ、一定財政状況は良好ですが、政府の借金は1,000兆円という天文学的数字になつております。

平成の初め頃起きたバブル崩壊以後「失われた10年」という時間が「失

われた20年」になつて、未だに脱出できないどころか一層深刻しております。このことが示しているのは「もはや戦後ではない」という言葉が一昔前も流行りましたが「もはや昭和ではない」ということではないでしょう。

私たち、新しい国際環境、新しい人口構成、新しい技術の中の平成時代にいるのに、今なお大勢の人がいつまでも古き良き昭和にすがりつき、そこを断ち切れないでいることではないでしょうか。

のではないでしょうか。古びた社会制度や慣例や法律、そして何よりも考え方や価値観に凝り固まっているのではないかと思いません。確かに昭和はいい時代でしたが、もう有り余るお金もありませんし、若者たちも少なくなつております。そして、静かにこのまま行けばとてもいいのですが、このまま行けば、次の世代に耐え難い状況を先送りすることは明白です。

今こそ三豊市は真に新しい時代「平成」をつく

りあげることに挑戦しようではありませんか。

現実を受け入れて、まず考え方や価値観を平成換えましょう。

「あれしてくれない」「これしてくれない」という「くれない族」というのがあるそです。

平成新時代は「くれない族」とは決別し「あれをしよう」「これをしよう」という人たちが中心になります。

三豊市平成新時代は、市民自身がつくる地域づくりです。この気持ちがあれば、何も恐れるものはありません。

今年は辰年です。

次世代を想い、次世代のために次世代につなぐ社会づくりに、市民全員の皆さんとともに挑戦したいと願っています。

本年も皆さまのご多幸をお祈りいたします。

三豊市民の福利向上を目指して



三豊市議会議長

近藤 賢司

議員

副議長

近藤 賢司

議員

小林 照武

副議長

近藤